

『 人生を潤す コーヒーの魅力にふれる講座 』

◎ 講 師 椎 原 渉 氏

[プロフィール]

出身は川添で、東陽中学出身。大学卒業後、別府市のコーヒー関連製品メーカーの「三洋産業」での勤務を経たのちに、国際協力機構（JICA）の海外協力隊員としてアフリカ・ルワンダでコーヒーの栽培支援に携わる。

帰国後、花高松でコーヒー豆のひき売り専門店「クリエートコーヒー ラボ」をオープン。（※場所は花高松1丁目1-32 新鮮市場花高松店の西隣り）

今年3月には、全国から64名のバリスタが出場した、コーヒーの抽出技術を競う大会「コーヒーブルーイングトーナメントジャパン2023」で、日本一に輝く。その後、チームジャパンの一員として韓国大会にも出場。

現在は公民館や介護施設での出張バリスタ、さらには東鶴崎にある生涯学習施設「大分市立エスペランサコレジオ」でもコーヒーの講座を持つ。

- ◎ 講座内容
- ・ コーヒー原産国の現状、コーヒーの魅力
 - ・ 美味しいコーヒーの淹れ方 + テイスティング 等

コーヒーの原産国 ルワンダ共和国について

アフリカの中では比較的治安が良いと言われており、ドイツ・ベルギーの植民地時代を経て1962年に独立。主要産業は農業でコーヒーやお茶の生産を行っており、特にコーヒーは輸出品目としても有名。鉱業も盛んで、内戦終結後は急速に経済成長を遂げ「アフリカの奇跡」と呼ばれている。

ルワンダコーヒーが最初に栽培されたのは20世紀初頭のドイツの植民地時代で、ドイツ人がルワンダにコーヒーの木を持ち込み、1930年には国をあげてコーヒー栽培を発展させることに力を入れた。内戦でコーヒー栽培ができない時代を乗り越え、現在はスペシャルティコーヒーなど世界が認める品質のコーヒーを栽培できる水準にまで成長した。

ルワンダの面積は2万6,000km²で、アフリカ大陸の中央にあり赤道から緯度で数度だけ南に位置する。西にコンゴ民主共和国、北にウガンダ、東にタンザニア、南にブルンジと接している。

一部の山岳地帯を除き国土のほぼ全域がなだらかな丘陵によって覆われているため、ルワンダは「千の丘の国」と呼ばれる。この丘陵は全て頂上まで耕されており、ルワンダの稠密な人口を支えている。国内の平均標高が1600メートルと高地にあるため、月の平均気温は年間を通して20度台前半でアフリカ大陸では涼しく、雨季が2回ある。